

2022年3月10日

公益財団法人日本バスケットボール協会
2021年度(7-6月期)第8回理事会 報告

日時:2022年3月10日(木) 14:00~16:00

会場:ー (WEB会議)

【報告内容】

1. 裁定委員会からの答申について
2. 2022年度S級A級審判員およびT級1級2級審判インストラクター昇格者の認定について
3. 正式S級コーチ養成講習会の実施について
4. 「コーチに関する規程」の改定について
5. 2022年度U18トップリーグ / ブロックリーグの運営について
6. その他、報告事項

以上

1. 裁定委員会からの答申について

裁定委員会から答申のあった下記事案について、以下の通り懲罰を科すことが承認された。

○ U12 カテゴリーのコーチ（対象者氏名等詳細非公表）

< 懲罰内容 >

2022年3月10日（懲罰決定の日）から1年間、本協会に係る資格の再登録を禁止する。

< 懲罰の理由 >

本協会倫理規程第3条第1項(3)「暴力、暴言、ハラスメント、差別、ドーピングおよび八百長等の不適切な行為ならびにスポーツのインテグリティまたはフェアプレーを著しく害する行為」に該当

< 事案の概要 >

クラブ所属児童に対する暴力（胸を正面から蹴る有形力の行使）

■懲罰の公表については、JBA公式サイト「懲罰の公表」ページをご参照ください。

>> <http://www.japanbasketball.jp/jba/sanction/>

2. 2022年度S級A級審判員およびT級1級2級審判インストラクター昇格者の認定について

2021年度に実施したJBA 公認S級・A級審判員審査会およびT級1・2級審判インストラクター審査会の結果に基づき、2022年度にS級・A級審判員に昇格する審判員およびT級1・2級審判インストラクターに昇格する審判インストラクターの認定について提案がなされ、承認された。

【内容】

- ・2022年度JBA公認S級審判員昇格者（1名）の認定
- ・2022年度JBA公認A級審判員昇格者（62名）の認定
- ・2022年度JBA公認T級審判インストラクター昇格者（5名）の認定
- ・2022年度JBA公認1級審判インストラクター昇格者（63名）の認定
- ・2022年度JBA公認2級審判インストラクター昇格者（100名）の認定

<その他、特記事項>

- ・2021年度男性S級審判員二次審査会（2022年3月12～13日実施）の結果に基づく昇格者の認定を審判委員会一任とし、その後理事会に報告することも併せて承認された。
- ・2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実技審査ができなかったため、2021年度S級・A級審判員の昇格者はなし

※認定人数多数のため、会議報告上での公表を割愛し、認定者への通知をもって公表とする。

3. 正式S級コーチ養成講習会の実施について

新型コロナウイルス感染症の影響により、正式S級（トライアウト、国内講習会4週間、外国人講師招聘など）の準備・運営が困難であることから、2022年度実施予定の正式S級コーチ養成講習会を2023年度以降に先送りし実施することが提案され、承認された。

【背景等】

S級講習会は2016年から暫定S級講習会（国内講習2週間）として毎年、実施。2021年度から正式S級講習会を実施する予定であったが、2020年度講習会を中止したため（コロナ影響）、2022年度に正式S級実施予定として今日に至っている。

ただし、現在のコロナの状況では2022年度実施は時期尚早と判断し、2023年度以降の実施として準備を進めていく。

<その他、特記事項>

- ・2022年度は現行と同様の暫定S級講習会を実施予定（都道府県推薦、リーグ推薦、国内講習2週間）。
- ・本件措置により、今後受講できないなどの被害を被る者は基本的にいないとの認識。

4. 「コーチに関する規程」の改定について

下記の目的により、「コーチに関する規程」の改定を行うことを提案し、承認された。

【目的】

- ・指導者養成委員会の設置に伴う対応

- ・キッズインストラクター→キッズサポーターへの名称変更の対応
- ・日本スポーツ協会との資格養成・管理窓口一本化の移行期間終了に伴う、移行措置の削除
- ・ライセンス別リフレッシュポイント導入時期の見直しに伴う対応

<その他、特記事項>

- ・キッズサポートリーダー（キッズサポーター養成講習会の講師資格）、キッズサポートマスター（キッズサポートリーダー養成講習会の講師資格）については資格要件の詳細を検討中のため、後日改定（規程への追加）を行うこととする。
- ・ライセンス別のリフレッシュポイント数変更は2019年度のコーチライセンス制度改定時に2023年度からの適用を決定したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響（ポイント取得のためのリフレッシュ研修が十分開催できていないこと）を考慮し、2023年度の適用を見送る。

また、ライセンス別のリフレッシュポイント数の導入適用時期の変更に限らず、コーチの資質向上のための更新制度の在り方について再検討した上で方針を決定する。

（現状ではオンライン研修やeラーニング研修なども進み、再検討の余地があるため。また、インテグリティの確保が喫緊の課題であるように、「必須研修」の導入についても再検討の余地があるため）

※名称変更に伴う改定規程についてはJBA公式サイト「各種規程」ページをご参照ください。

>> <http://www.japanbasketball.jp/jba/kitei>

5. 2022年度U18トップリーグ / ブロックリーグの運営について

コロナ禍にて開催予定の2022年度U18トップリーグ「チーム決定方法」の変更、および2022年度U18ブロックリーグについて下記提案がなされ、承認された。

【内容】

1) 2022年度U18トップリーグ「チーム決定方法」の変更

出場チーム審査時において、

- ①2021年度全国大会（2021年度インターハイ、ウインターカップ）の成績を反映する。
- ②同率になった場合は、2020年度ウインターカップの成績を反映する。

<主な理由>

- ・当初予定されていた審査対象の各種大会の中止などが相次いでいること。



- 2024 年度に 9 ブロックにおける各ブロックリーグが構築される計画のため、それ以前は参入戦によるチームの入れ替えができず、毎年審査会にて審査する必要が生じることになる。その際の審査会ではわかりやすさ、当該年度の全国上位チームの戦績が反映されるよう、より直近での大会結果を反映させるため。

2) 2022 年度 U18 ブロックリーグの開催について

2022 年度は、4 ブロック（関東 / 東海 / 中国 / 四国）にて開催

<その他、特記事項>

ブロックリーグにおいても各ブロックの状況を踏まえて、開催方式 / 開催日程 / チーム選出方法等を定め、JBA 承認とすることで進める。

6. その他、報告事項

(1) 技術委員会テクニカルレポートについて

技術委員会において東京オリンピック 2020 のテクニカルレポートを作成したことが報告された。

【作成の目的】

1. 世界基準にするため今後の強化育成に役立てる。
2. 歴史の記録として残し、積み上げることで近未来を予測する。

【内容】

男子代表、女子代表、3×3男女代表のレポート+映像資料。

【伝達対象】

1. エリートタレントを扱う指導者(トップリーグ、大学、高校、中学)
2. 全てのライセンス保有指導者
3. 一般の方々
4. PBA

※テクニカルレポート内容については、JBA 公式サイト「指導内容資料」ページにてご確認ください。

>> <http://www.japanbasketball.jp/training/documents/>

(2) 技術委員会ユース育成方針・指導内容指導方法について

技術委員会ユース育成部会・エリートコーチ養成部会より指導内容・指導方法の方針について、2021 年度 U14U15 ナショナル育成キャンプにて実践し感触を得られたことから、都道府県育成センター（男女共通）に展開することが報告された。

(※資料提示による報告。具体的な説明は割愛)

(3) 男女アンダーカテゴリーU16 / U17 代表活動について

今年6～7月に開催予定の男女アンダーカテゴリーU16 / U17代表のFIBA主催国際大会について、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う措置として、

- ①若年層の国際大会であること
- ②コロナ禍での長期間の海外遠征となること
- ③欧州を中心にコロナ以外での世界情勢も不安視されること



を理由に、必ずしもベストメンバーでの代表チームの編成とはならなくても、技術委員会・男女UC代表強化部会およびヘッドコーチが推薦する代表候補選手の中から、本人・保護者・所属先の参加意思確認ができた選手を選考対象とし、事前の同意を得た上で派遣手続きを進めることが報告された。

以上